

3. 研究の内容

参加者のニーズ
(第1回共同研究会より)

基本的な生活習慣が
身につけていない

こだわりが強い

進路の問題
保護者の理解

コミュニケーションの
指導をどう
すれば？

問題行動への
効果的な対応
は？

生活場面で生かせる
SSTの指導は
難しい・・・

ことば・かずの
指導をどうすれ
ばいいの？



こんな「個別の指導計画」があれば・・・

作成するときに

活用するときに

作成しやすい
(時間と労力の
効率化)

課題への
アプローチがわかる

実態把握

目標設定の
仕方がわかる

指導方法
指導プログラム

具体的な指導の
手立てがわかる

こんな
個別の指導計画

あれば . . .

授業に
活用できる
日々の記
録メモ

評価しやすい

子どもの変化

教師の変化

引き継ぎに
使える

保護者への
説明に使える

ワークシート(試案)を使った実践研究

ワークシート(試案)

1. フェイスシート
(基本情報)

2. 方略シート①

3. 方略シート②-1
方略シート②-2

4. 単元シート

1. フェイスシート(基本情報)

2. 方略シート①

⇒目標をスモールステップで設定
するために

3. 方略シート②-1

⇒問題行動へのアプローチ①
(代替行動を目標に)

方略シート②-2

⇒問題行動へのアプローチ②
(望ましい行動を目標に)

4. 単元シート

⇒授業で活用するために

フェイスシート(基本情報)

第 学年 氏名 男・女 平成 年 月 日 生まれ

障害名等(状況)

諸検査の結果等

実	基本的 生活習慣	
	社会性	
態	学習状況	

指導の方向性

実態把握から、どのような力をつけさせたいか。
目標設定の理由になることを書いてみましょう。

目標はいくつでも構いません。その子どもに必要な分だけ設定。追加も可能。

目標

方略シート①

目標

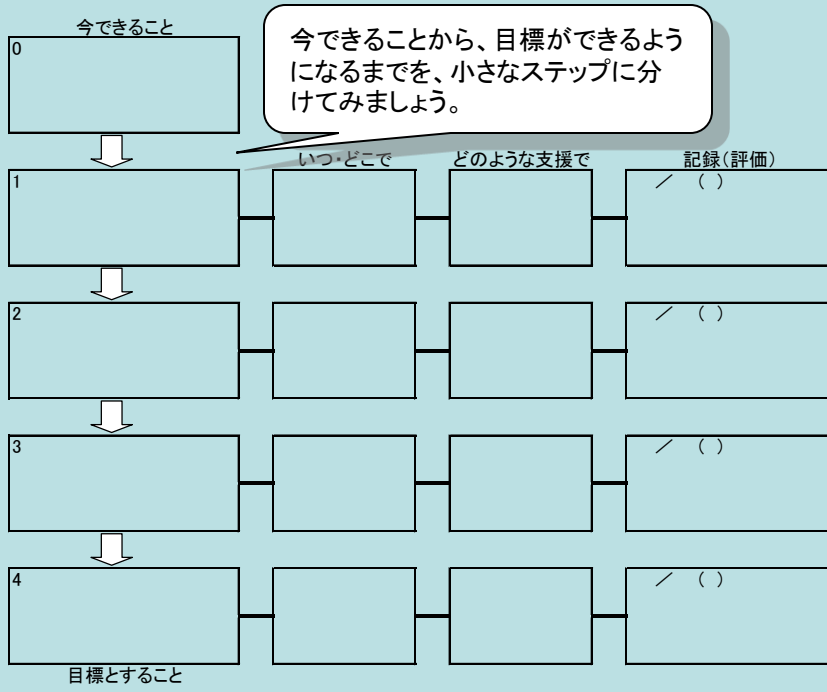
目標1つにつき、1枚作成しましょう。

目標に関連することがらで、できること助けてもらってできることを整理してみましょう。

ひとりできること	
助けてもらってできること	

できることと、助けてもらってできることを整理してみましょう。

今できることから、目標とすることまでの道すじをたててみましょう。

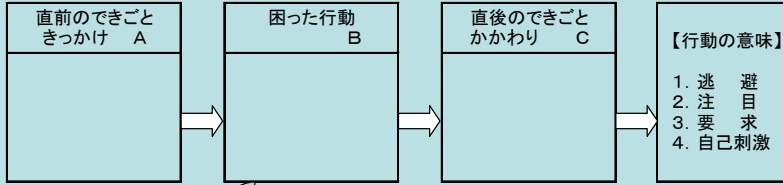


備考(指導を通して気づいたこと・申し送りたいことなど)

方略シート②-1

困った行動へのアプローチを考えてみましょう。

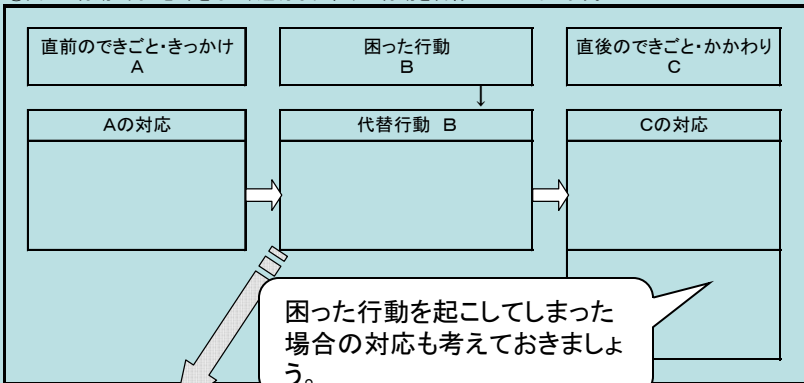
1. 行動の整理



2. 目標行動の設定

- ★ 望ましい行動を指導するのが難しい場合→①へ
- ★ 望ましい行動を指導できる場合又は①が達成した場合→②へ

①困った行動と同じ意味をもつ、適切な代替りの行動を目標にしてみましょう。

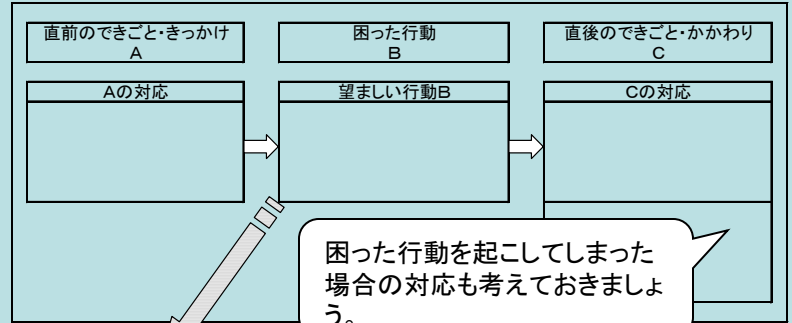


困った行動を起こしてしまった場合の対応も考えておきましょう。

目 標	手だて (AorC)	記 録 (評 価)
		/ ()
		/ ()
		/ ()

方略シート②-2

②望ましい行動を目標にしてみましょう。



困った行動を起こしてしまった場合の対応も考えておきましょう。

目 標	手だて (AorC)	記 録 (評 価)
		/ ()
		/ ()
		/ ()
		/ ()

備考 (指導を通して気づいたこと、申し送りたいことなど)

単元シート

目 標			
-----	--	--	--

教科・単元名 (月)	指導目標	支援の方法	評価

教科・単元名 (月)	指導目標	支援の方法	評価

教科・単元名 (月)	指導目標	支援の方法	評価

教科・単元名 (月)	指導目標	支援の方法	評価

教科・単元名 (月)	指導目標	支援の方法	評価

教科・単元名 (月)	指導目標	支援の方法	評価

備考(指導を通して気づいたこと。申し送りたいこと)

シート例1 (方略シート①)

目標が
具体的に
段階的に
設定

毎週の
授業で
取組

今できること	いつ・どこで	どのような支援で	記録 (評価)
入室の挨拶を言うことができる(健康観察を持って行くときのみ)			
教室以外の部屋に入っていく時は挨拶を言えるようになる。	11/12 教室で 実際場面で	お手本を示す 写真カード活用 他の部屋は一緒に行く	11/12 意外だったのは、お手本を示す中で本児が「次〇〇ちゃん」と自ら始めたこと。
前回の復習をし、一人でお使いをする。返事を聞いてから入室できるようになる。	11/19 前回の復習 おつかい 職員室・保健室の先生	おつかいの動機付け (みかんと手紙) 返事による判断 「今はダメだから」	11/19 おつかいを付随させたことで興味は持ったが、こちら側が多くのこと(誰から、渡し方、どうぞ)を求めることになってしまい、複雑化
人に物を渡す時に、言葉を添えて渡すことができる。	12/3 教室で練習 保健室の先生	ロールプレイ 「これどうぞ」「お願いします」 きちんと渡す	12/3 あいさつの練習は進んで取組もうとする。
人に物を渡したり頼む時に「どうぞ」「お願いします」等の言葉を添えることができる。	1/14 教室で復習、練習。保健室の先生に	教室で場面設定 お面をつける	1/14 「行ってきます」「ただいま」はお気に入り(遊び感覚)。そこから先が進みにくい。飽きない程度に繰り返し指導が必要。
返事を聞いて入室し、ことづけものをわたすことができる。	この間、本児のコミュニケーションが進み、自分から周りの人に話しかけていくことが増えた。「何してるの?」「休憩、どうぞ」と単調な繰り返しであるが反応を楽しんでいる。場面設定により、これを豊かにしていきたい。		
目標とすること			
備考(指導を通して気付いたこと・申し送りたいことなど) ・分かりやすい行動であれば、ロールプレイをすることに進んで取組むことができる。・場の安心感、人間関係における信頼感を高めていくこと、同時にコミュニケーション力を育てていくことが目標達成につながる。・人との関係を楽しめる言葉によるコミュニケーション力を育てていきたい。			

模倣力と
いう強み
を利用

教師の支
援につい
ても評価。

シート例2(方略シート①)

目標が
評価に応じて、
段階的に設定

PDCA
サイクル

般化の
視点

目 標	どのような支援で	記録 (評価)
音をたてないように置く。	音をたてないように置く練習をする。	10/1 練習をすると上手にできた。
↓		
そっと置くことができる	「そっと」の声かけをする。	10/5 そっとと自分で言いながら、そっと置くことができた。
↓		
優しく人に物を渡す	手に優しく載せられたら、OKの合図で知らせる。	10/14 手に載せる時も最初はそっと声をかけるようにすると、すぐ同じように「そっと」と言いながら、手に載せることができた。そしてOKと確認する。但し、ノート限定である。
↓		
他の物でも、そっと置いたり手渡したりできる。		11/19 担任に物を手渡す場合は気をつけられるようになったが、ノート以外の物を机に置いたり、他の人に手渡したりする時はまだ声かけが必要である。
↓		
そっと置いたことを知らせることができる。	そっと物を置いたら教えてくれることを約束する。	1/14 そっと置いた物を教えることができた。
備考(指導を通して気づいたこと、申し送りたいことなど) 物、人限定ならできるようになるが、違う物、人になるとまた声かけが必要である。一度できるようになったことに関しては定着するため、ひとつひとつ指導を重ねることが大事である。		

日々の
記録
(評価)
ができ
ている

授業実践(学習指導案より)

対象授業 生活単元学習

単元名 「気持ちのよいあいさつをしよう」

単元目標 相手に不愉快な思いをさせずに挨拶をすることができる

単元設定について

軽度知的障害を伴う広汎性発達障害の児童が、相手の感情を理解できない、場の雰囲気を読めない、協調して遊べない、社会的ルールが分からない、羞恥心の欠如、多動・不注意・衝動性、特有の言葉遣いなどの障害特性により、学校生活を送る中でトラブルが大変多い。

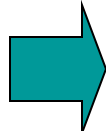
改善したい問題行動として、適切な挨拶の仕方、異性への身体に対する興味、勝負の勝ち負けへのこだわり、があげられる。いずれの問題行動も、今後生活年齢と共に周囲の受け入れが難しくなってくると考えられる。良好な人間関係を築き、円滑な集団生活を送るためにも改善していきたい行動である。

指導目標 「〇〇先生、おはようございます。」とすることができる。

「個別の指導計画」との関連性(ワークシートより抜粋)

【長期目標】 人との正しい関わり方を身につける。
楽しみながら学習に取り組む。

【短期目標】 〇〇先生、〇〇さんと呼びかけることができる。

 シート例3

シート例3(方略シート①)

今できること

**指導場面(授業)
が明確になった**

	いつ・どこで	どのような支援で	記録(評価)
1 促されると、見立てた相手には「〇〇先生、おはようございます」と言うことができる。	授業で(SST)	写真カードを相手に見立てて挨拶する。	11/11(水) 「〇〇先生、おはようございます。」と、促されて言えた。その後は、相手との会話を楽しんだ。
2 1と同様	授業で(SST)	〇〇先生、〇〇先生のお面をつけた担任に挨拶する	11/20(金) 名前もつけるように指示すると「〇〇先生、おはようございます」と言えた。
3 1と同様	授業で(SST)	他の先生のお面を担当つけて挨拶する。	11/24(火) 「〇〇先生、おはようございます。」と言えたが会話することに気をとられた。
2 1と同様	校内で	ワークシートの吹き出しに挨拶と会話を書く	11/24(火) 挨拶文は書くことができたが、会話文を書くことが活動の中心になってしまった。
5 「〇〇先生」「〇〇さん」と呼びかける。 目標とすること	校内で	そばにいただけ。指示なし。	

指導の手だてが**具体的に**

授業後に評価(記録)ができて
いる

共同研究の成果と課題(参加者より)

成果

- 【ワークシートの活用をとおして】
- ・記入することにより、目標や指導の手だてを具体的に考えることができた。
 - ・子どもの課題を整理したり、取り組む課題を焦点化できた。
 - ・日々の指導で意識的に子どもにはたらきかけることができた。
 - ・授業と短期目標との関連づけを意識できた。
 - ・評価(記録)を繰り返すことで継続した指導ができた。
 - ・授業実践をとおして、指導の具体的な指導方法の交流ができた。

課題

- 【ワークシートについて】
- ・記入例や解説、ガイド等が必要。
 - ・軽度知的障害や情緒障害の教科指導にも使えるものに。
- 【その他】
- ・障害の基礎理解(実態把握)や指導で活用できる情報提供が欲しい。

個別の指導計画作成・活用に資する

子どもの理解・支援のための
ワークシートへ
(内容・様式・構成等の再検討)